



～【航空貨物輸出システム】導入事例～

株式会社 様

人は現状に満足していればしているほど、変化を嫌う。
変わることを嫌い、現状維持に努める。しかしその変化が...

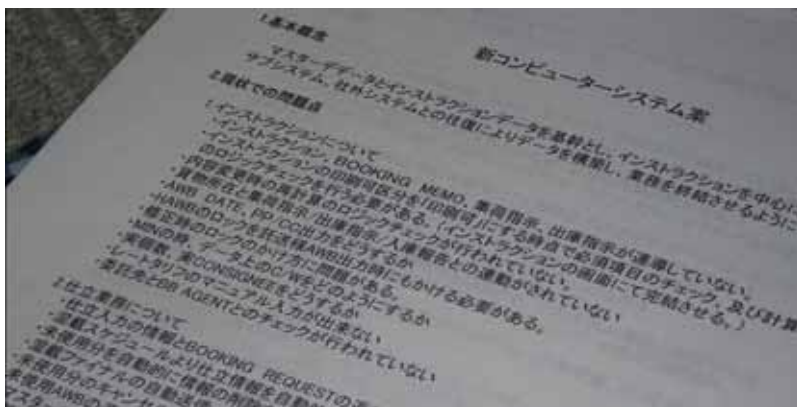
今、感じている満足感よりはるかに上回る満足感をもたらした時...
人は変化を受け入れる。

今回の導入事例で、その軌跡を紹介したい。

株式会社 様の旧システムは「かゆいところに手が届くシステム」、
つまり、お客様自身が現場のニーズやリクエストを随時吸収し、発展・強化を繰り返すこ
とで進化を遂げ、一つの完成型を誇っていた。

しかし、そのようなシステムであっても。
長年使い続けると、現業にそぐわない部分がいけると出てくるようだ。

ここにA4用紙4枚の資料がある。
お客様より提出頂いた、新システムの構想についてまとめられたものである。



「基本となるインストラクションデータを肉付けすることで、最終的な確定データとして
処理しよう」、という基本概念が示唆された後に旧システムでの課題が約40項目列挙さ
れている。

内容は、インストラクション・仕立・精算・混載・請求書作成といった主要業務に関するものである。

例えば、

インストラクション業務

- ・インストラクション、ブッキングメモ、集荷指示、出庫指示が連動していない。
- ・貨物所在と集荷指示、出庫指示、入庫報告との連動がなされていない。

仕立業務

- ・仕立入力の情報とブッキングの返却が2度手間になっている。

“連動”、“2度手間”という単語が目に入る。

仕立業務

- ・混載スケジュールより仕立情報を自動的に入力する。

混載業務

- ・マニフェスト出力の自動化が必要。
- ・MAWB出力の自動化が必要。

“自動”という言葉が繰り返し登場する。

各情報の連動性を高め、手間数を少なくする仕掛けが必要という想いが伝わってくる。

そして、更に新システムの問題が提示された。

「スタンダード」という言葉である。

構成要素は2つ。「サービス」と「操作性」である。

お客様に対して一定の基準を満たした質の高いサービスを提供する、
「サービスとしてのスタンダード」（＝社外に向けてのスタンダード）。

ファーストフーズ店のように作業の流れを標準化し、誰でも質の高い作業が行なえる、
「操作性としてのスタンダード」（＝社内に対するスタンダード）。

つまり「スタンダード」という概念は、

社内外に対して常に高いレベルの満足度を感じて頂くことを目的としたシステム開発が必要、ということを経営者の方から求められたのである。

次に、お客様から特にご好評の声を頂いている機能について解説する。

マスタ事前設定の有用性

【作業に入る前の準備が仕事を大変、楽にする】

これは、仕向地や国内 / 海外代理店、売値 / 仕入レートをはじめとする各種マスタ情報を事前に整備して頂くことにより、入力画面での初期表示やシステム内部での自動制御が大幅に強化されることを意味し、表示された内容に少し手を加えるだけで完成データを手早く用意することが可能となる。

新システムに初めて触れる方でも短時間の操作訓練で、すぐに質の高い作業が行える。

「操作性としてのスタンダード」の実現。

受注管理

【個人に最適な検索で進捗管理が可能】

2種類の画面が存在する。

業務の進捗度合いが、HAWBとDAWB、又はMAWBの状況一覧で表示される。

以下は、前者の単位で表示した一般受注管理画面。

完了	期入日	AWBNo	MAWBNo	DEST	集荷	RCG S/I	入庫	出庫	コスト	HBL	HBL	Y	請運	請包	請発	搭載	船定	Y	
<input type="checkbox"/>	2007/02/07	41828556	205-92184265	BKK	○	済	未	済	済	済	未	未	未	CC	済	済	未	無	Y.
<input type="checkbox"/>	2007/03/01	9199510	012-00066752	IGN		済	済	済	済	済	未	未	未	CC	済	済	未	無	Y.
<input type="checkbox"/>	2007/03/01	27244044		IGN		済	未	済	済	済	済	未	済	済	済	済	未	無	T.
<input type="checkbox"/>	2007/03/01	27244151		SHA		済	済	未	済	済	済	未	済	済	済	済	未	無	S.
<input type="checkbox"/>	2007/03/01	70972181		HKG		済	済	済	済	済	済	未	済	済	済	済	未	無	S.

「自分の仕事がどこまで進んでいるのか、自分の仕事がどれだけ残っているか、又注意すべき貨物はあるのか」が一目でわかる構成に仕上がっている。

旧システムの課題の一つであったインストラクションデータに対するブッキングや集荷指示、出庫指示の状態もここですぐに把握できる。○部分。

いつの仕立て?、誰が担当?、といった基本的な検索条件に加え、帳票の未出力データは?、といった指定もできる。又、画面に表示された検索結果を仕事のしやすいように並べ替えたり、自分だけの条件としてシステムに記憶させる機能も有している。

(パーソナライズ機能)。

「操作性としてのスタンダード」の実現。

先に述べたマスタの事前設定、そしてシステム使用者自身の手で検索条件をカスタマイズできるこの進捗管理機能は、作業時間の大幅な削減につながった。

パレット機能

【1秒ルールの実現】

旧システムで特筆すべき事柄に処理スピードがある。

100万件を超えるデータの中から1秒以内に探したいデータが検索できる事実に驚くと共に、新システムの開発において大きな壁となった。

更に開発言語の選定後、業務画面を開くだけで数秒かかってしまうことが判明する。

例えば、受注管理画面の検索結果より該当データの詳細内容を見ようとした際、業務画面の起動に数秒かかってしまう。これでは性能の劣化である。

処理スピードがより速い開発言語の検討、という危機に直面しつつも調査に調査を重ねた結果、業務画面が起動している状態であれば瞬時に表示できる手法を開発メンバーが見つけた。

そして、「起動した状態で有効であるのならば、起動させたままにしておけばよいのではないか」という考えを加え次の内容を提案し、了承を得た。

- (1) 業務メニューを開く時点で複数の主要業務を同時起動させる。
- (2) 業務メニューを終わらせるまでは一度起動した業務は終了させない。

これにより長らく開発メンバーを悩ませた「1秒ルール」を実現したのである。

新システムでは、インストラクション入力で貨物情報を入力した直後に、請求入力で請求情報を付加する。ここにも今回、開発したパレット機能が活かされている。

現在開いている画面から、これから見たい情報の画面をボタン一つで瞬時に開く。

既存の技術とアイデアを融合させて実現に導いた価値ある機能である。

メール/FAX

【手作業からの自動化に加え、操作ミス/障害への対応機能を付加】

顧客や海外代理店へのメールやFAXは、全て手作業。一つ一つの作業単位は短時間であったとしても、全体で捉えた場合、決して無視できないコストである。

新システムでは、席を立つことなく送付したいデータに対してメールアドレスやFAX番号と件名を設定し、送信ボタンを押すだけの操作で送付できるようになった。

尚、送付中でも引き続いて業務を継続することが可能である。

アドレスやFAX番号の入力間違い等で送付できなかった場合は、送信者のメールボックスに処理未達のメールが自動的に届けられる。又、システム障害を検知した際には、システム管理者へその旨をメール通知する為、迅速な現場フォローも行なえる、といったシステムの信頼性を高める役割もメール機能は担っている。

「操作性としてのスタンダード」の実現。

「サービスとしてのスタンダード」の実現。

一括発行機能

【1回のボタン押下で、複数帳票を一括作成】

取り扱う直截データはDAWB、混載データはMAWBとして最終的に確定された状態となる。その後、顧客や代理店、航空会社に送付する請求書をはじめマニフェスト、AWBの各種帳票を印刷する。○部分。

この帳表群を印刷ボタンの押下のみで全て作成してしまう。混載帳票発行画面の例。

「操作性としてのスタンダード」の実現。

さらにいくつかの書類に対してはホッチキス機能を有したプリンタを利用することで、印刷と同時にホッチキス止めまでを完了させている。

E D I 機能

【伝送データの作成も、ワンボタン】

印刷と並行してNACCS¹仕立やCCS²向けHAWB / DAWB / MAWB等のデータ作成も、条件入力後のワンボタン操作で可能である。

「サービスとしてのスタンダード」の実現。

¹ NACCS(Nippon Air Cargo Clearance System) : 航空貨物通関情報処理システム

² CCSJ(Cargo Community System Japan) : 国際航空貨物業に關係する業者間で、情報の交換や自動化をするシステム

長期に亘る開発を要した新システムであるが、それでも当初の予定を100%達成できたわけではない。システムの導入を優先する為に、開発範囲から外さざるを得なかった業務もいくつか存在する。

国内代理店業務
債務管理業務
管理帳表業務

等である。（構成図に明記されているが未導入）

今回のシステム開発は、お客様を含め開発に携わった全ての人間が決してあきらめることなく一步一步、最終目標に向かって前進を続けたことにより、途中転びつつも無事にゴール（導入）に辿り着くことができた。

航空貨物輸出入システムの立ち上げをご検討、あるいはシステムについてお悩みの際は、当社にお声をかけて頂きたい。

< ご連絡先 >

関西総合システム株式会社 <http://www.kisnet.co.jp>

〒550-0015 大阪市西区南堀江 1-1-14（四ツ橋中埜ビル）

TEL 06-6578-3020（営業企画部 小浦、ソリューションシステム部 赤堀玄）